

## 助成事業実施報告書

団体名 町方ふれあい子ども食堂

代表者・代表 水谷 智恵

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

ひとり親家庭食材等宅配支援事業

## 2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

愛西市子育て支援課と連携して、支援の希望があったひとり親家庭を対象に、毎月第4月曜日の夕方ボランティアスタッフが対象家庭を訪問し、食材等の宅配を行いました。宅配時にできる限り母親とお話し、最近の状況、困りごとがないかの聞き取りを行いました。聞き取った中で、緊急性の高いものは、代表から子育て支援課へ連絡を行うことにしました。また、子どもたちにも可能な限り会って、虐待がないかなどの観察を行いました。

## 3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

令和5年4月当初、子育て支援課から紹介されたひとり親家庭は、47世帯子どもの人数101名でした。令和6年3月に宅配した時は、53世帯子どもの人数113人でした。対象世帯の入れ替えも多少ありました。

月1回の支援ではありましたが、お弁当と多くの企業様から協賛いただきました食材などを支援家庭にお届けさせていただきました。お母さんからは、物価高騰のあおりを受け、満足に子どもさんたちにお菓子や食事の食材を買ってあげることができず、困っていたところへ今回の事業で支援をいただき本当に喜んでいただきました。また、子どもたちは第4月曜日を楽しみ待っていてくれるようで、車が到着すると、待ってましたと大喜びで飛び出してくる子どもさん多く見受けられました。

また、お母さんと月1回ですが話をするうちコミュニケーションが図れるようになり、いろんな話を聞くことができました。今回は、緊急性の高い事案はありませんでしたが、これを契機に引き続き見守り活動を続けていきます。

対象世帯数は、なかなか減らすことはできませんが、対象になった世帯へは全力でサポートを行い、みんなが笑って暮らせる社会づくりの一助になればと思っています。

## 4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

ひとり親家庭の実態を聴くと、内容は様々です。ただ総じていえるのは物価高騰の影響を受け厳しさが増しているのは実感で感じられます。私たちは、地域のボランティア活動の延長線で活動しています。任意団体のため社会的な信用度を希薄なため、思うように活動資金や物資が集めることができません。そんな時、今回のご支援していただけると本当にありがたいです。どうぞ今後をこのような活動を続けられることを切に願います。

## 5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

